令和元年一二月七日　於高崎市市民活動センターソシアス

高崎学検定シンポジウム
「石碑から見る郷土の歴史～柔術・武術」

和田健一（多胡碑記念館）

要旨　①江戸時代の武術は、武士のほか農民も学んでいた。
②村に存在する武力（治安維持、身上がり、村々・人の交流）
③現在も残る郷土の武術関連の石碑を大切にしよう。

Ⅰ　戦国の甲冑武技と近世近代の柔術

①角力（古代／角力節会（儀式）、近世／職業力士・村落（余興））投げ
②甲冑所作（戦国期／白兵戦による格闘武術）組うち・小具足
③中国拳法（明代に伝来）打ち・突き・蹴り

柔術

※戦場では大砲・鉄砲・弓が主力→護身術・心身の修養
・近世近代柔術＝A投げ・締め・おさえ＋B打ち・突き・蹴り＋C小型武器

講道館柔道の誕生（嘉納治五郎）A→スポーツ化・国際化
空手の誕生（沖縄空手）B・現代柔術A＋B→スポーツ化・国際化
古武道A＋B＋C

Ⅱ　上州の柔術

一、戸田流と気楽流

（一）系譜

【戸田流】戸田越後守信正（加賀国）―（引（足）田文五郎）―新藤雲斎―戸田内記（伏見淀藩）―戸田隼人（江戸）―渡辺李右衛門（江戸）―金沢新兵衛（駿河国府中）―渡辺兵右衛門（近江国大津宿）―絹川久右衛門（上野国緑野郡新町宿）

（新町道場）

【気　楽　流】

（緑野郡上大塚村）
蛭川菊右衛門
飯塚臥竜斎興義―

（佐位郡・那波郡）　門人三千人（緑野郡下大塚村）

―児島善兵衛（宮子村）―五十嵐金弥信好（茂呂村）―**斎藤武八郎**…（以下略）
（一七九四～一八八一）
門人数千人

気楽流（緑野郡・多胡郡・甘楽郡・勢多郡）

飯塚徳三郎興義（緑野郡下大塚村）―飯塚帯刀義高（武蔵国榛沢郡）――――

（臥竜斎、一七八〇～一八四〇）　（興義養子、門人三千人、一八六九没）

飯塚竜之助興高――――――飯塚猪早司義興

（義高の子、門人二千人、一八八一没）（義高の子、門人二千人）　※『新町町誌』を元に一部修正

（二）関口万蔵守行（気楽流）多胡郡神保村農民（伝として帰農した武士）

弓術を学び、吉井宿に逗留の浪人・南部六郎左エ門（大村流）に学んだという。明治一六年（一八八三）気楽流飯塚猪早司に入門する。（『皇朝英明録』より（以下『英明録』）。頌徳碑の篆額は嘉納治五郎。

（三）その他（幕末～近代の道場主・師範級人物）

下田幸之助（緑野郡下戸塚村）、北川喜重郎義利（勢多郡江木村）、志村周作（新田郡上中村）、高山辰太郎（群馬郡白郷井村）、吉田定太郎（多野郡万場村）、阿部善右衛門（沼田）

二、荒木流　荒木無人(仁)斎を祖とする

（一）糸井柳見齋寿穂

新田郡上田島村農民で、国体を憂い高橋某に「武術」を学ぶ。館林藩主に二三年間仕え、維新後も、遠近の後進となる者を育てた。

糸井寿穂寿蔵碑
明治 23 年建立
【太田市上田島町
常楽寺前】

（二）糸井義貫

寿穂の子。武術を嗜み（門人五百人）神官職を兼務した。新田郡宝泉村村会議員

糸井義貫碑
明治 29 年建立
【太田市上田島町
常楽寺前】

（三）その他（幕末～近代の道場主・師範級人物）

北爪長太郎（新田郡平塚村）、木村周作・清水信吉（安中宿）、岡田定五郎（安中藩）島田竹次郎・清水清平・都丸磯七（北甘楽郡富岡村）、根岸忠蔵・小山正平（多野郡上野村）、渋沢喜平・渋沢金蔵・渋沢万吉・菊地代三郎政光（佐位郡茂呂村）

（『英明録』より）

三、天神真楊流

嘉納治五郎が学び、講道館柔道の基礎となった流派。明治期に柔道整復師を確立。

【楊心流】　一柳織部

【真之神道流】本間丈右衛門

—磯又一郎正光—磯又右衛門正智—磯又右衛門正信—磯又右衛門正幸

【天神真楊流】　江戸神田に道場を開く

磯又右衛門正足（天明期～一八六三）

（一）神保源十郎正義（柳風斎）（一八二九～一九〇七）池端村農民

「技」を桜井邦造（青梨村、磯又右衛門正足／一七八六～一八六三の門人）に学ぶ。自ら又右衛門に入門。文久元年、橋本道竜斎（武州鷲宮）に勝利、道場を開く。門人二千人、高弟の田子信重は警視庁柔術師範となる。

神保源十郎寿蔵碑
明治 28 年建立
海江田信義篆額
門人名多数
【前橋市池端町八幡川そば】

（二）その他（幕末～近代の道場主・師範級人物）

広木政五郎（高崎宿）、三好正治（高崎）、田中富五郎義苗（北群馬郡榛東村）

（『英明録』より）

四、霞新流（制剛流の分派）

（一）系譜①

森川武兵衛高正—和田十郎右衛門正重—里村随心政氏—梶原源左衛門直景—

水早長右衛門信正【制剛流】……真下松五郎文近（板鼻宿）【霞新流】—↓

（僧・制剛）↘

峰岸弥三郎文茂（群馬郡下小鳥村）—峰岸弥三郎文郷—峰岸弥作文信

峰岸弥作文信（一八六〇～一九一六）六郷村会議員、下小鳥区長、群馬郡会議員

霞新流柔術のほか、宝蔵院流鎌槍の術、整骨術、六成流堝花を学ぶ、門人二千人

峰岸先生之碑
大正 6 年建立
嘉納治五郎篆額
井上通泰撰書
【高崎市下小鳥町幸宮神社近く】

（二）系譜②

清水謙山―赤城（高崎出身、江戸で兵学者となる）
（一七六六～一八四八）神道一心流剣術ほか

出牛信綿（惣介の高弟、板鼻の学者・原思斎の義父）

高橋惣介（宗助）（大八木村農民、天利氏）―亀吉
（寛政一二年／一八〇〇没）　（文化一〇年／一八一三没・享年五二）

中西子正（小野派一刀流剣術／江戸中西道場）―富田大八（里見）

（三）その他（幕末～近代の道場主・師範級人物）

北村大五郎・北村栄二郎・木島庄次郎・木島宇之吉・木島包健・木島宇三吉・峯岸政吉・峯岸弘正・峯岸兼吉（群馬郡下小鳥村）、宮田喜三郎・宮田捨五郎（群馬郡金井渕村）、峯鶴五郎・三ツ木松元郎（高崎宿）、清水覚太郎・清水亀吉・篠田伝吉（高崎宿）、新保要吉（群馬郡上飯塚村）、清水倉三・清水覚太郎・清水茂作（群馬郡松之沢村）、赤尾惣平（群馬郡里見）『英明録』より

Ⅲ　村の武術の展開

一、柔術と剣術

（一）中澤（間庭）源蔵清忠（足門村）

清忠（一七九八～一八七五）は金古宿・中澤家に生まれ、足門村・間庭家の養子となる。小野派一刀流の中西子正に学び、松代藩士となり同藩剣術指南役となる。晩年は、故郷の足門村で道場「清隆館」を開き、忠次、忠義と三代にわたって指導した。

清忠寿蔵碑【足門町】
門人は 2000 人余という。

清忠頌徳碑
【金古町諏訪神社近く】撰文は林舜

・交流

剣術：神保臥雲・雪居（文人、金古宿代官）、中曽根慎吾（下里見村、算学者）
柔術：櫻井義住（青梨村、天神真陽流柔術）、山本屏之助（八神山本流柔術）
神保源十郎（池端村、天神真陽流柔術）とその門人

（二）岡田卯蔵・又八父子

卯蔵（西新波村農民）は幕末維新期に、霞心流柔術と学心流剣術の免許皆伝を得る。高崎五万石騒動の西新波村惣代となる。その子又八は、安中藩指南役荒木流・根岸宣教に免許皆伝を受け、自宅に道場「学心館」を開き、門人二千人という。剣道教士、群馬県会議員を歴任する。

※学心流：馬庭念流から分かれた剣術で、一ノ宮の山口藤十郎勝政が開いた。子の藤十郎勝信は刑部省に出仕するが、東京へ歎願に出た五万石騒動の惣代たちと政府の仲介役となる。

二、幕末維新と村の武術

（一）武井泰郎三岳

緑野郡藤岡農民の子の泰郎は、江戸の中西子正に小野派一刀流を、中沢雪城（長岡藩士・書家）に書を学び、故郷で寺子屋を開く。元治元年（一八六四）天狗党の行動に理解を示す。維新後は教育者となり、小学校校長などを歴任する。

（二）小園江義全・丹宮父子

水戸藩出身とされる義全は、仏教学と剣術（流派不明）に長じ、文化一一年（一八一四）上州に来て南大類柳原観音堂（当山派修験明王寺）別当となり、寺子屋を開いて地域の庶民教育に従事した（一八五七没）。子の丹宮も明王寺別当と寺子屋を次ぎ、学問と剣術を教授した（『庶民教育調査票』）。

小園江義全頌徳碑
明治13年(1880)建立
【南大類町柳原観音堂東】

試論　武術から見る江戸時代の農村

農兵と農村の武力：関東取締出役設置（一八〇五）、改革組合村（一八二七）

① 岩鼻代官所：「悪党」取締のための剣術・柔術稽古場の設置願→農兵取立
② 農兵隊指揮官（名主等、豪農層の子弟）：村の治安維持と支配強化
③ 上層農兵（村役人）と一般農兵（小前層）の関係
④ 農兵動員に対する問題：維新期動乱に対する農兵動員（吉井藩農兵の戦死）
　高崎藩五万石騒動における農兵費用負担の拒否（明治二年一〇月一七日嘆願書）